

教育、学術、文化、体育のために尽力され、その功績が顕著で他の模範となる個人や団体を表彰する「高梁市教育委員会表彰」の表彰式が、11月1日に市役所で行われました。



【個人の部】
すぎた もりじ
杉田 守二さん
(備中町長屋)



【個人の部】
はしもと いわき
橋本 石基さん
(落合町阿部)

本市の地形を生かし、多くのクライマーが訪れるクライミングスポットを整備され、また、備中中学校においてフリークライミング指導を20年余り続けてこられました。閉校後の現在は、成羽中学校と、富家小学校においては4年生から6年生を対象としたクラブ活動の指導をされています。

問 教育総務課 ☎(21)1500

岡山邦楽合奏団の代表として、箏石会を主宰されるかたわら、平成19、20年度に校長として勤務された玉川小学校で、赴任以降今まで箏曲の指導を継続され、箏曲が同校の特色となるよう取り組まれました。

また、公民館でも箏曲の指導をされ、指導する玉川小学校の児童が、全国小・中学校箏曲コンクールに出場し、昨年度銅賞、本年度銀賞を受賞するなど大きな成果をあげ、琴や邦楽の継承と普及に尽力されています。

10月8日・15日・29日 市内各所
秋の休日を満喫



各会場とも多くの人で賑わう

市内各所で秋の物産祭りが開催され、多くの来場者が訪れました。

各会場では、地元団体などが地域の特産品をはじめ、ピオーネや山菜おこわなど、ふるさとの味を販売。地元芸能や備中神楽など、それぞれの会場で特色のあるステージイベントが行われ、訪れた来場者は秋のひとときを満喫していました。

10月14日 二松學舎大学 中洲記念講堂(東京都)
「未来志向の大政奉還」



記念行事で開催したパネルディスカッション

大政奉還150周年記念行事「未来志向の大政奉還」(記念委員会、市主催)を開催しました。パネルディスカッションでは山田方谷の子孫・野島透氏を進行役に、板倉家19代当主の板倉重徳氏、徳川宗家19代の徳川家広氏、東京大学史料編纂所教授の山本博文氏、萩博物館資料室長の一坂太郎氏が、時代の転換期の意義などについて意見を交わしました。

11月4日 地紅茶まつり(栄町)
全国の紅茶を楽しむ



アーケードの下で紅茶を味わう

栄町商店街で「第6回高梁地紅茶まつり」(栄町商店街活性化プロジェクト主催)が開催され、地紅茶カフェや紅茶の足湯が並びました。

地紅茶カフェに並んだ国内6カ所の地紅茶や、高校生が商品開発したお菓子などを市内外から訪れた多くの人々が味わっていました。

また、ステージでは高校生によるダンスや備中神楽が披露され、会場を盛り上げました。

10月28日 高梁市図書館
入館者数50万人突破



50万人目の来館者へ花束と記念品を贈呈

高梁市図書館の入館者数がオープンから50万人を突破しました。50万人目の入館者は総社市から訪れた千葉大耀さんと、近藤市長、藤井館長から花束と記念品が贈呈されました。

2月4日のオープン以来、市内外から多くの人々が来館しています。これからも皆さんに愛される図書館として、さまざまなイベントなども開催予定です。

在宅医療・介護連携推進事業通信 第35回

愛育委員の友愛訪問～つながる地域の見守り活動～

おがさき ゆきとも 准教授(吉備国際大学社会福祉学科)

ご近所さんを気にかけ、困ったことがあれば相談に乗ることは、安心して暮らせる地域づくりに欠かせません。お互いで支え合う関係は、住民同士の顔の見える間柄が大切です。しかし、少子高齢化が進む現代では、住民同士がつながることも難しくなってきました。そこで今回は成羽地域の見守り活動である「友愛訪問」について、成羽地域愛育委員会の穴田英子会長にお話を伺うとともに、同支部会の活動を見学してきたので、その様子をお届けします。

成羽地域での愛育委員による友愛訪問は30年ほど前からの取り組みになりますが、最初は「訪問」という言葉に堅苦しさを感じ、訪問活動に消極的な方もいたそうです。しかし、隣家へ回覧板を持参したときに、「新聞がたまっていないか」、「明かりが消えていないか」などに心を配り、きめ細かい活動を続けたことで受け入れられ、地域がつながる大切な活動へと発展しました。

「なにか用事をつくっては訪問し、積極的に話しかけることによって、現在でもつながりづくりの活動として続いています。友愛訪問を続けたことで、知らない人にも声をかける地域になった」という穴田会長の言葉が印象的でした。

支部会では地域検診の受診状況などについて意見交換が行われ、受診率の向上には住民への積極的な呼びかけが大切であることを確認しました。

引き続き、地域の健康づくりを推進するための研修会が行われました。今回は成羽病院の言語聴覚士・植田崇弘さんによる「誤嚥予防～飲み込みの仕組みを知ろう～」と題する研修会です。年齢を重ねることで嚥下機能が低下し、上手に飲み込めずに誤嚥性肺炎になることから、嚥下機能に合わせた食事の形態を知ることや口の中の手入れ、口腔体操が大切だとのお話がありました。愛育委員会での研修会は、各愛育委員が健康に対する知識を広げる目的もありますが、地域の健康づくりのリーダーとしてその情報を伝えるという目的もあります。今回の講話も友愛訪問や声かけの中で伝える情報の一つとして活用されることになるのです。今回、愛育委員の皆さんの活動取材し、乳幼児から高齢者まで幅広い健康づくりを支える愛育委員の活動が、地域づくりにつながっていることを知る機会となりました。



問 医療連携課 ☎(21)0304